

平成22年度 文部科学省 大学教育改革推進事業
産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業

プロジェクト活動報告

①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」において開発・実施してきた「メンタルタフネス講座」は、学生の「メンタル面の育成」を通して、就職後の早期離職などを防止するための講座であった。今回の取組では、これまでの実施経験や学生からの要望等を反映させた「実践講座」を追加し、総合的な「就業力」の育成を図るとともに、「新メンタルタフネス講座」としてキャリア科目群の実習科目として正規科目化する。

②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験(バーチャル人事体験)
アクティブラーニングによる学生の主体性・創造性を育成し、自己理解を深める活動として、学生が採用面接官を疑似体験する「バーチャル人事体験を行った。特に通常経験することのない「面接官」の役割をオブザーバーとして体験することによって、企業人事の視点からどのような学生が求められる評価の対象となるかについて、企業側のニーズや自己の職業観を理解することが可能となる。

③地域企業・組織と連携したプロジェクト体験
実社会におけるプロジェクトベースでの仕事の増加状況を鑑み

④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施(学部)とアクティブラーニングの手法を使った教育経験の共有(短大)
学部では、学生自らが行動を起こすアクティブラーニングをコセプトとして、それを達成するための5つの要素(グループワーク、ディベート、フィールドワーク、プレゼンテーション、振り返り)を包括的に含むインターンシップ活動を連携大学間にも拡大し、学生、連携大学、地元企業の3者間の相乗効果によって更なる成果を狙う。また短大ではあらゆる局面でアクティブラーニングの手法としての5つの要素を含むような活動を展開し、高度度を図るとともに、各大学の教員・学生代表によるプレゼンテーションを通じ、教育力のレベルアップを図ってゆく。

プロジェクト活動報告 ～プロジェクト活動を通した社会人基礎力の育成～

専属嘱託講師 村松 東

社会人として働くためには、業種業界を問わず共通に必要とされる基本的な能力がある。

豊橋創造大学情報ビジネス学部・経営学部、豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科では、地域企業・組織と連携したプロジェクト活動を通して、健全な職業観と職業観を持ち組織の中で協調して活動できる人材の育成に不可欠な社会人基礎力(ジェネラルスキル)の養成に取り組んでいる。

社会人基礎力とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」(経済産業省)と定義され、「前に踏み出す力」、「考え方力」、「チームで働く力」の3つの能力と、その能力を構成する12の能力要素の養成が必要とされる。

社会人基礎力の12の能力要素をバランスよく身に付けることで、成果の

ある仕事、周囲とのコミュニケーション、仕事とプライベートとの両立ができる、その結果として学生にとって社会で自立するための自信につながることになる。

本事業で実施するプロジェクト活動では、学生が企業をはじめとする外部組織プロジェクトチームを組んで、独立性と有機性のあるプロジェクトに取り組んでいる。企画・運営・進捗管理・報告といった4段階のプロセスを踏んだ実践を通して、社会人として主に必要とされる主体性、計画力、情況把握力、発信力をはじめとする能力要素を養成する。

今後においても、本学では、特色のある実践的なプロジェクト活動を通して社会人基礎力を養成し、学生の総合的な就業力の育成を図ることを目的として本事業を実施する。

最後に、この事業にご理解・ご協力いただいた地元団体企業各位をはじめ、関係各位に御礼を申し上げます。

図表: 3つの能力 / 12の能力要素	12の能力要素	内 容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え方力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	情況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人の約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

出典: 経済産業省「社会人基礎力」とは



●情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 ●経営学部 経営学科 ●短期大学部 キャリアプランニング科

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1 脊部キャリアセンター
TEL:050-2017-2104(直通) FAX:050-2017-2112(直通) インターネット [URL] http://www.sozo.ac.jp/ [E-mail] job@sozo.ac.jp

地域産業界連携 教育力改革プロジェクト活動報告

地域産業界連携 教育力改革プロジェクト

事業推進責任者 佐藤勝尚

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」は、三重大学を代表校とした中部圏23大学によるアクティブラーニングを通して、教育力および地域・産業界との連携力を通じて、教育改革力を強化する取組である。本学情報ビジネス学部／経営学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科は、その中で東海Aチームに属して幹事校と副幹事校からなる中部地域大学教育改革推進委員会の調整のもと、連携PDを通して教育改革の実践過程で生まれる成功と失敗を共有しつつ教育力を高め、中部圏産業連携会議を通して大学が育成しようとする資質と地域・産業界のニーズに関する対話をを行うものである。また、その地域・産業界のニーズに対応した能力を育成するため、学生参加型授業、共同学習、課題解決学習やPBLなどを教育現場に取り入れ、就業力に関わる学生の能動性を高め、改革を進めるとともに、社会現場での実践教育としてのインターンシップを高度化するものである。

現在、大学における人材育成と産業界のニーズとのギャップについて最も指摘される点の1つは「学生の主体性・創造性の欠如」である。これは、企業入社後において、与えられた仕事しか出来ない、仕事上の問題点を自ら発見し、目的を設定し、仮説を立て、創造的に解決していくという社会人として必要な姿勢が欠如している状態である。この問題は学生の能力が欠如しているではなく、彼らがこれまでの人生経験において目的を持って主体性と創造性を發揮する機会が十分に備わっていないかったことにあると考えられる。大学全入時代において各大学の学生サポートが非常に手厚くなる中、学生が「自らの力」で主体的に活動する機会や、創造的に物事を解決する経験が減少していることが原因として推測される。この問題に対応するため、本学では「大学生の就業力育成支援事業」として、これまで情報ビジネス学部・経営学部と同短期大学部キャリアプランニング科が共同で取り組んできた「持続型職業人SOZOプロジェクト事業」を発展させ、右記①～④を柱とした事業展開を進め、学生の総合的な「就業力」の育成を図るものである。

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部

地域産業界連携教育力改革プロジェクト

- ①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
- ②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験(バーチャル人事体験)
- ③地域企業・組織と連携したプロジェクト体験
- ④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施(学部)とアクティブラーニングの手法を使った教育経験の共有(短大)

各事業の内容は最終ページにて案内しています。



豊橋創造大学短期大学部 キャリアプランニング科 プロジェクト活動

1 食の伝達「大学生コックさんのクッキング教室(こどもクッキング)」プロジェクト
担当教員:朝倉 由美子 協力:豊橋市福祉部こども未来館 ココニコ

現代では食事は家庭で作らなくても用意できるほど食の外部化が進んでいる。その簡便さに押され、家の味・母の味は無くなりつつあるのではないかと懸念する。そこで、調理を学ぶ学生たちは、少しでも早くから家庭で食事作りに関する知識を学ぶ。小学生向けに料理教室を計画し、本年度はビザやギョウザなど子どもたちのクエストも盛り込んで3回実施した。子どもには料理をするの大切さや楽しさ、そして自分で作って料理のおいしさを伝え、一方学生は料理教室開催に関わる過程の問題解決や自らの技術の確認とコミュニケーションの必要性を学んだ。何度も参加してくれて顔見知りになった子どももあり、学生の緊張はだいぶほぐれた。料理教室の開催は大変だが、楽しくてよい経験になったと述べ、学生自身の成長にも有効であった。今後もこの活動を通して多くのことを学んでもらいたい。

2 豊橋の朝市を考えるプロジェクト
担当教員:今泉 仁志 協力:豊橋觀光コンベンション協会

豊橋市では、現地でも毎日、市内の5ヵ所のどこかで「朝市」が開かれている。大正時代から続いている、すっかり市民に定着した存在とも言える、出店側・購入側双方の高齢化が進み衰退していく一方である。「三八の市」(豊橋市前細町)を例にすれば、最盛期には200を超えた店舗数も、現在では、その十分の一の20店程度の規模である。「朝市」のみならず、個人経営の「八百屋」も廃業が続き、一般消費者は「スーパー・マーケット」を使うようになっている。「朝市」の存在自体を知らない学生も多いため、「マルシェ」全般を調査せ、実際に「朝市」に行ってみる経験をさせた。夏の真っ盛りということで、炎天下での自営業の大変さを実感できたようだ。朝市の存続を望む意見が大半を占めたが、その消滅は避けられないようだ。

3 発酵食品のおいしさ発見プロジェクト
担当教員:木下 賀律子 協力:(株)小田商店(株)ピック

数年前から、麹を使った発酵食品が話題になっている。本プロジェクトは、①日本の伝統食品である麹を使った味噌や醤油などの発酵食品についてその製法を調査し、それを使った調理法を研究すること、②学園祭でパネルや料理の展示を通して発酵食品についての情報を一般に公開することを目的とした。また、調理実習の集大成として、学園祭でレストランを企画し運営した。主な活動内容は、手作り味噌體驗や味噌の醸造元(市内の小田商店)他)を訪ね、味噌蔵を見学。一方、レストランでは、自分を作った味噌を使い汁や野菜たっぷりのスープ類、手作りパン・チリコンカンなどの料理をお客様に販売するという体験を通して、社会性を養う力を身に付けることができた。本プロジェクトは、学生達の自己実現の場としても有意義な活動になつたと考えている。

4 防犯プロジェクト
担当教員:干賀 博巳 中島 剛 細谷 邦夫 協力:愛知県豊橋警察署

働く意欲と意識の向上を目指して、「人と人のつながり、絆を大切にし、社会に貢献する学生生活を送るために、自分たちに何ができるか」を考え、先輩たちが発足したボランティアチームCTS(Clean Team SOZO)の活動を継承した。活動は、月に一度の地域巡回と豊橋警察署と連携した駅前のキャンペーン活動が主であったが、学内の自転車の施錠点検や、少年立ち直り支援行事などにも参加した。地域巡回やキャンペーン活動では、最初戸惑っていた学生が、大きな声で手を振る姿が見られた。活動の中、行事に参加した他のボランティア団体の方との交流も積極的に図られた。また、CTSの防犯活動に対し、愛知県地域安全研究会及び豊橋警察署から感謝状をいただき、学生たちも自分たちの活動に自信を持つことができた。

5 身近な自然発見・発信プロジェクト2012
担当教員:寺本 和子 協力:NPO法人 東三河自然観察会・愛知県三河港務所

愛知県の東三河地方は、多様性に富んだ地形を有し、その結果、東三河の自然もまた多様である。しかし、これら多様な生物の現状は決して楽観できない。プロジェクト参加者は、NPO法人東三河自然観察会の指導を受け、実際野外(蒲郡市竹島、豊川市東三河ふるさと公園、豊橋市葦毛湿原)へ出て自然を感じ、自然に感動する感性を養いながら、東三河の自然の現状を知ることに努めた。

また、三河湾に浮かぶ竹島の自然観察を通して興味を持った「三河湾汚染の現状と対策」について、愛知県三河港務所の協力を得ながら深く学んだ。

以上の活動を通して、社会人との交流マナーを学ぶことも努めた。

6 長谷川ゼミ活動報告
担当教員:長谷川 正志 協力:医療秘書教育全国協議会

我々の活動は、地域産業界との連携を目指したものではなく、学生たちの資格取得という学びの1つに対する実践的チャレンジと、幅広い視野を広げるという意味での「韓国医療研修」の二本柱の活動を行った。医療秘書技能検定試験では、二級受験者35名に対して合格者35名という全員合格率を勝ち取った。又、最難関の準1級では35名の受験者に対して29名の合格者が合格率は8.2%であったが、全国平均合格率(37.1%)に比べると極めて高い合格率であった。又、成績優秀者として全国表彰者も2級2名、準1級2名を輩出した。韓国医療研修は8月29日～31日の2泊3日で実施し、韓国ソウル市の漢陽大学を訪問し、医学部附属病院、国際病院を見学した。又、異文化交流ということで、観光・グルメショッピング等も満喫した。以上の活動を通じて学生の学びに対する向上心と、連帯感・コミュニケーション能力の開発に寄与することが出来た。

7 豊橋うどんプロジェクト
担当教員:花岡 駿明 協力:(株)東京電機

本プロジェクトのテーマは、豊橋麺類食堂組合青年会との協働による豊橋地域におけるうどん・そばに関する総合的調査の実施と「豊橋うどん」の普及に関する貢献活動を行うことであった。

本年度は、全般的な市場調査に向けての準備段階として、調査手法を学習し、豊橋のうどん市場の現状把握を目的としたアンケート調査を行った。また、豊橋うどんのルーツについて、関係者にインタビュー調査を実施した。更に、これらの活動成果や情報を発信したためHPやブログを作成した。学生メンバーは、短大部と学部の有志学生からなる混成チームであったため、活動時間のズレなどで苦労した点もあったが、意欲的に作業を進めてくれた。今後、アンケートやインタビュー調査の結果報告、また、更なる調査や情報発信について活動を継続する予定である。

8 We ♥ ROSE プロジェクト
担当教員:村松 史子 協力:Watanabe Rose Nursery ガーデンガーデン(株)

地域の産業の実態を知り、地域のために何ができるかを考える場として本年度も田原市の花農家(バラ園)と連携をして実践した。

学生の発想を期待して、プロジェクト名を「からWe」と改称し、「絆を大切にしよう」とテーマとした。目標を具体化するため「育てる・作る・売る」の3部門に分かれて取り組んだ。7月30日、バラ園を見学し、生産者の栽培に關注する苦労や喜びを身近に見聞きすることができた。学園祭には、产地直送の新鮮なバラと前評判の高い「青いバラ」の販売を行ない完売した。実践を通して、自分の得意とする面をグループ内で活かすことの喜びと、互いに認め合い協力することの大切さを感じていてこれが何よりの成果と考える。



豊橋創造大学
情報ビジネス学部／経営学部

プロジェクト活動



6 医療情報の 学習環境構築と運営

担当教員:五味 悠一郎

診療情報管理士認定試験(以下、認定試験)合格のために、学内を対象とした自主勉強会の企画運営、学内外を対象とした診療情報管理士認定試験対策講座(以下、対策講座)の企画運営および宣伝活動、診療情報管理士のデジタル問題集の作成を行なった。

対策講座の学外受講者は18名程度となり、知名度を向上させ、地域貢献することもできた。今年度からは参加費(全15回の講座で2万円)を徴収して運営費に充てることとしたため、昨年度より学外受講者が減ることが予想されたが、プロジェクトメンバーの頑張りにより、昨年度と同程度の学外受講者を集めることができた。一般的に、大学の教育目的で実施するプロジェクトは連携団体の負担が大きく、WIN-WINの関係を作れないことが多いが、本プロジェクトにおいてはWIN-WINの関係が構築できたと評価できる。九州地方や中国・四国地方からも受講者を集めることができたのは、大きな収穫であった。

昨年度のプロジェクトの成果を、昨年度のプロジェクトメンバーである学生が日本診療情報管理学会で発表したところ、学会参加者から多くの問い合わせがあり、新たな繋がりも生まれた。発表学生のモチベーションも高まったようである。本プロジェクトは、3月末に行われる認定試験の合格発表後、受講生にアンケートを実施し、集計・検証を行って終了となる。本報告には間に合わないので、本プロジェクトの成果は今後も学会等で広く伝えていく予定である。



1 豊橋コンテナターミナルの 発展可能性に関する調査研究

担当教員:石田 宏之

協力:日本通運(株)豊橋支店・日本通運(株)豊橋支店 海運営業所
愛知県三河港務所・城北ふ頭コンテナターミナル・豊橋市産業部港湾活性課

三河港は、重要な港湾の中でも「重点港湾」として位置づけられ、港湾整備に期待がもたらされている。また、三河港は、輸出入完成自動車の基地(豊橋地区、田原地区、蒲郡地区)であるとともに外貨物にとて重要な役割を果たしているコンテナターミナル基地(神野地区公共埠頭)ともなっている。また、公共埠頭でのコンテナ取扱量は増加傾向をしており、今後もコンテナ基地が発展する可能性がある港であるため、プロジェクト演習のテーマとして「三河港豊橋コンテナターミナルの機能と役割(発展可能性)」を設定した。

豊橋コンテナターミナルの後背囲は広く、立地している企業も多いため、コンテナ貨物の潜在量はないものと推測される。また、現状のコンテナターミナルの能力は、現状の2倍の量を取り扱うことができる。今後も、自動車部品等を対象としたロシア向け航路も開設することが計画されている。

また、今後の数量拡大に伴い寄港の数を減らすことによりリード

タイムの短縮と1個当たりコンテナの輸送費の削減を図ることが可能となり、さらに数量拡大は、アジア地区への直行便も開設も今後考えられる。

このように、豊橋コンテナターミナルが有するメリットは、①低廉性、②通関の迅速性、③緊急時対応の迅速性、④インターナショナルモーダルシップが可能であることなどであり、豊橋コンテナターミナルは、将来的に発展可能性のある港であることがわかった。



2 iPad,iPhoneで利用できる アプリケーション作成

担当教員:今井 正文

協力:アイエスエール(株)インターネットイニシアティブ



経営学部では全学年にiPadが無償貸与され、教材として使うだけでなく、レポート作成のための情報収集やゼミナールでのプレゼンテーション作成、就職活動などのあらゆる場面に利用されている。また、無線LAN環境も完備されおり、学内どこからでもマイクロソフトを利用することができます。本プロジェクトは、iPadの特性を活かした学習支援アプリの作成を行なった。アプリ作成を通じて開発技術を学ぶとともに、学習ツールとしての効率的な活用について学習しながら活動を行なった。

本プロジェクトは、iPadの特性を活かした学習支援アプリの作成を行い、アプリ作成を通じて開発技術を学ぶとともに学習ツールとしての効率的な活用を考える自ら活動を行なった。具体的には、授業での利用を目的とし、テスト問題の製作・配信、解答の機能を備え、学籍番号や名前等の項目表示、キーボード及び手書き文字入力、データベース接続(データ送受信)の機能を有する学習支援アプリの開発を行なった。制作方法や開発環境の検討については、協力先企業様への企業見学で得た情報やアイディアを参考にした。なお、協力先企業は、株式会社インターネットイニシアティブ名古屋支社と株式会社アイエスエールの2社様である。

最終的には、2チームに分かれ File Maker、HTML+CSS+JavaScript、PhoneGap等を用いて実際に学習支援アプリの制作を行なうを通して、チームによるアプリ開発の基礎を学ぶことができたと考えている。

3 ヨシノパンプロジェクト

担当教員:加藤 尚子

協力:ヨシノベイカリー(株)

本学に設置されているヨシノノット自動販売機の売上向上に貢献するため、プロジェクトメンバーである学生4名は様々な活動に取り組んだ。具体的には、ADMAモデルというモデルをもとに、Attention及びInterestを向上させることで、売上向上に貢献する活動である。プロジェクト実施にあたり、本学学生の自販機利用について事前調査を行い(自販機観察)、その結果をもとに企画書を作成、ヨシノベイカリー株式会社(ヨシノノット)の代表取締役社長、鈴木雅晶氏にお時間を頂戴し、本プロジェクト企画についてのプレゼンテーションを行なった。プレゼンテーションの結果、鈴木氏よりプロジェクト実施の許可をいただき、活動を開始した。

活動開始後の具体的な活動内容についてあるが、Attention及びInterestを向上させる方法として、ヨシノノットに関する紙面(3号分)を協力企業へのインタビュー及び学内アンケート等を通して作成、学内に掲示する方法を採用了。また紙面掲示とともに本学学生に対してアンケートを実施した。アンケート結果及び協力企業へのインタビューからは本プロジェクトでの取り組みが売上向上に貢献でき可能性があると考えられている。

また、学生たちは協力企業へのプレゼンテーション、インタビュー、紙面作成のべ1300名にもおよぶ学生へのアンケート実施や分析等、多岐にわたる活動には取り組んできたが、このような活動により、学生それぞれがプロジェクト活動中のさまざまな時期に社会人基礎力を伸ばす場面が観察されている。

秋学期以降は、店舗企画を具体的に展開した。一口に店舗企画といっても、検討すべき領域は多岐に及び、学生たちには相当の覚悟と粘りが必要だった。幸いにも理論学習と具体的な企画を通して彼らのモチベーションが次第に高揚し、自発的に取り組む意欲やアイデア開発について成果を見た。特に学生たちに、店長、総務经理、仕入れ、マネジメント、広報の役割分担を決めてから、企画作業が進んだ。

1月現在、学生たちの努力により、3月の開店を目指して最後の詰めを行なって至った。仕入れ商品調査にはまめびら立ち、後は運営スタッフ、営業日程、人員配置、店舗運営などの細則を詰めながら、店舗装飾、電飾看板、その他備品調達の段階まで進んでいる。ただし、学生たちが毎営業日に店舗に詰めることは事实上不可能なため、学生たちの店舗共同経営者を現在探していく、これがまれに即席で開店とすることができる。各位の一層のご協力を願う次第である。

4 SOZOショップ企画・開店

担当教員:川戸 和英

協力:NPO法人 どんぐりの会・農橋商工会議所・豊橋市発展会連盟



豊橋市広小路にあったコーヒー豆販売の「SOZOチャレンジショップ」を、新たに「SOZOショップ」として立ち上げ、開店するためのプロジェクトとして2012年度から開始された。

4名のメンバーに加えて他のゼミからの希望者を入れた合計5名で取り組んだ。まず店舗企画・運営について全く未経験の学たちに本プロジェクトを取り組ませるために、第1回にマーケティングと店舗運営の理論学習と、第2回具体的な店舗企画の二本立てで進めた。その後、豊橋商工会議所はじめ連携団体企業へのヒアリングや、広小路商店街に関する学生の意識調査を行なった。

秋学期以降は、店舗企画を具体的に展開した。一口に店舗企画といつても、検討すべき領域は多岐に及び、学生たちには相当の覚悟と粘りが必要だった。幸いにも理論学習と具体的な企画を通して彼らのモチベーションが次第に高揚し、自発的に取り組む意欲やアイデア開発について成果を見た。特に学生たちに、店長、総務经理、仕入れ、マネジメント、広報の役割分担を決めてから、企画作業が進んだ。

1月現在、学生たちの努力により、3月の開店を目指して最後の詰めを行なって至った。仕入れ商品調査にはまめびら立ち、後は運営スタッフ、営業日程、人員配置、店舗運営などの細則を詰めながら、店舗装飾、電飾看板、その他備品調達の段階まで進んでいる。ただし、学生たちが毎営業日に店舗に詰めることは事实上不可能なため、学生たちの店舗共同経営者を現在探していく、これがまれに即席で開店とすることができる。各位の一層のご協力を願う次第である。

5 豊橋エコタウンプロジェクト ～豊橋市内小学校に設置された太陽光発電システムの状況調査～

担当教員:見目 喜重

協力:豊橋市教育委員会 教育政策課

エネルギー・環境問題、脱原子力への対応策として、クリーンで無尽蔵であり、かつ家庭など生活に身近な場所での設置が容易な太陽光発電の普及が急速に拡大している。一方で、太陽光発電は設置方法により発電量が大きく異なるため、システムの故障や発電性能の劣化などの長期信頼性に関する問題点も指摘されている。そのため、発電に関するデータの長期収集・分析が重要である。

本プロジェクトでは、太陽光発電の長期信頼性に関する基礎的なデータの収集・分析、エネルギー・環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発を目的に、平成23年度に引き続き、豊橋市内小学校に設置された太陽光発電システムの稼働状況および環境教育への取り組みに関する防災調査を行なった。

調査に当たっては、学生が事前に小中学校の担当者と日程調整を行なった。その後の訪問時に、システムの設置場所、障害物の有無、発電量など稼働状況を確認するとともに、運転トラブルならびに環境教育への活用状況などの聞き取りを行なった。

昨年度は全74校中17校の調査にとどましたが、今年度は74校全てを訪問した。その結果、この年間にシステムの停止などのトラブルが5件生じていたことが分かった。また、平成11年度に設置された最も古いシステムでは、年間の発電量が減少傾向にあることが分かった。この原因がシステムの発電性能の劣化によるものなのかどうかは、今後、日射量との比較などによる精密な分析によつて判断する必要がある。

豊橋市広小路にあったコーヒー豆販売の「SOZOチャレンジショップ」を、新たに「SOZOショップ」として立ち上げ、開店するためのプロジェクトとして2012年度から開始された。

4名のメンバーに加えて他のゼミからの希望者を入れた合計5名で取り組んだ。まず店舗企画・運営について全く未経験の学たちに本プロジェクトを取り組ませるために、第1回にマーケティングと店舗運営の理論学習と、第2回具体的な店舗企画の二本立てで進めた。その後、豊橋商工会議所はじめ連携団体企業へのヒアリングや、広小路商店街に関する学生の意識調査を行なった。

秋学期以降は、店舗企画を具体的に展開した。一口に店舗企画といつても、検討すべき領域は多岐に及び、学生たちには相当の覚悟と粘りが必要だった。幸いにも理論学習と具体的な企画を通して彼らのモチベーションが次第に高揚し、自発的に取り組む意欲やアイデア開発について成果を見た。特に学生たちに、店長、総務经理、仕入れ、マネジメント、広報の役割分担を決めてから、企画作業が進んだ。

1月現在、学生たちの努力により、3月の開店を目指して最後の詰めを行なって至った。仕入れ商品調査にはまめびら立ち、後は運営スタッフ、営業日程、人員配置、店舗運営などの細則を詰めながら、店舗装飾、電飾看板、その他備品調達の段階まで進んでいる。ただし、学生たちが毎営業日に店舗に詰めることは事实上不可能なため、学生たちの店舗共同経営者を現在探していく、これがまれに即席で開店とすることができる。各位の一層のご協力を願う次第である。

6 医療情報の 学習環境構築と運営

担当教員:

担当教員:五味 悠一郎

担当教員:五味 悠一郎